

環境経営レポート

対象期間：2023年10月～2024年9月

＜ 第 15 版 ＞

**明日へ・未来に向け資源循環型社会の構築
に全社員を挙げて取り組みます。**



2025年1月30日 作成



〒421-2124 静岡県静岡市葵区足久保口組165-1

Tel 054-296-1298 Fax 054-296-2370

<https://mizunaga.com>

目次

1. 組織の概要	P. 1
(事業所、所在地、事業の概要、事業規模等)	
2. 対象範囲	P. 2
(認証・登録範囲)	
3. 環境経営方針	P. 3
4. 環境経営目標	P. 4
5. 環境経営計画	P. 5
6. 環境経営目標の実績	P. 6
7. 環境経営目標の取組結果とその評価、次年度の取組内容	
(1) 環境経営目標の取組結果とその評価	P. 7
(2) 環境経営計画の取組状況	P. 8
(3) 次年度の環境経営計画	P. 9
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに 違反、訴訟等の有無	P. 10
9. 代表者による全体評価と見直しの結果・指示	P. 11

1. 組織の概要

1. 事業所及び代表者

株式会社 水永建設

代表取締役 水永吉紀

2. 所在地

本 社 〒 421-2124 静岡県静岡市葵区足久保口組165-1

TEL 054-296-1298 FAX 054-296-2370

清水軌道出張所 〒 424-0037 静岡県静岡市清水区袖師町 1496-20

資機材置場 〒 421-2124 静岡県静岡市葵区足久保口組1727-3

3. 環境管理責任者 土木部参与 石谷嗣夫

担当者 海野光代

E-mail info@mizunaga.com

4. 事業概要

・建設業 (総合建設業)

建設業の許可 特定建設業 静岡県知事許可 (特-6) 第24567号

・土木工事業 ・とび土工事業 ・石工事業 ・ほ装工事業
・鋼構造物工事業 ・しゅんせつ工事業 ・塗装工事業
・水道施設工事業

・産業廃棄物収集運搬業 自社運搬のみ

静岡県許可 第02201166682号 令和4年 6月 11日

産業廃棄物の種類

廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず
及び陶磁器くず、がれき類、紙くず、木くず、繊維くず

5. 事業規模

活動規模	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
		2020年10月～ 2021年9月	2021年10月～ 2022年9月	2022年10月～ 2023年9月	2023年10月～ 2024年9月
売 上	百万円	357	392	373	466
従業員	人	18	22	22	22
床面積	m2	541.5	541.5	541.5	541.5

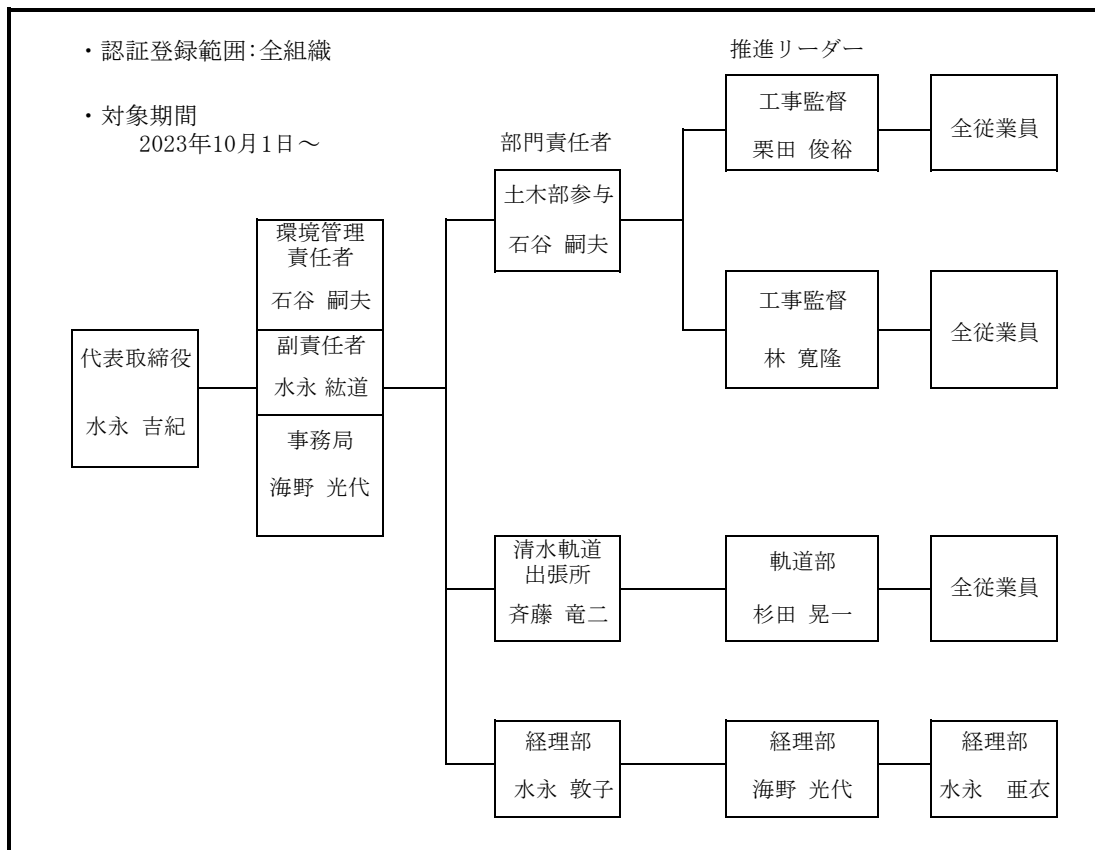
6. 事業年度

期首 10月～期末 9月

加盟団体 建設業労働災害防止協会 静岡県支部

2. 対象範囲

組織図



責任と権限

担当	役割・責任・権限
代表取締役	- 環境方針の策定 - 取り組みを実行するための資源(人員・設備・費用)の用意 - 環境管理責任者を任命する - システム全体の評価と見直し - 実施体制の構築 - 経営上の課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	- 環境経営システムを構築・運用しその状況を代表者に報告する - 環境目標、環境活動計画の策定、見直し - 環境関連法規などの遵守及び評価 - 外部よりの苦情処理 - 社内教育の実施
推進事務局	- 文書及び記録の管理 - 環境管理責任者の補助業務 - 更新、中間審査の申請手続き
部門責任者	- 環境目標に対する実績管理 - 活動計画の実施状況の把握と指示 - 環境管理責任者と社内教育の実施運営 - 全体の進捗状況の把握と実施指示・確認
推進リーダー	- 環境方針の理解と取組への重要性を認識 - 決められた事を守り、自主的、積極的な環境活動への参加 - 協力会社への指導 - 環境改善の提案
全従業員	- 環境方針の確認、理解 - 環境改善の提案

3. 環境経営方針

【環境理念】

事業者として、土木建設及び軌道工事を通じて、社員一人ひとりが
環境の保全を意識し資源循環型社会の構築に継続して取り組みます。

【環境方針】

当社は環境理念に基づき、以下の環境方針を定め継続的な環境経営を展開します。

1. 省資源・省エネルギー活動を推進し二酸化炭素排出量の低減に努めます。
2. 廃棄物の削減とリサイクル活動の推進に努めます。
3. 節水に努めます。
4. 工事現場における環境に配慮した施工等により環境負荷の低減に取り組みます。
5. 環境関連法規等を遵守します。
6. 社員に対し環境に対する教育を行い環境保全の意識の向上と環境経営の継続的な改善に努めます。
7. 環境レポートを公表し社会とのコミュニケーションを積極的行います。

制定日 2011年 10月1日

改定日 2021年 8月1日

株式会社 水永建設

代表取締役 水永吉紀

4. 環境経営目標

中長期環境経営目標

【全部門】

基準年は2018年度実績（2017年10月～2018年9月）

項目	単位	基準値(2018年度)	2024年度目標 (増減率)	2025年度目標 (増減率)	2026年度目標 (増減率)	2027年度目標 (増減率)
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	64,355	-2.0%	-2.5%	-3.0%	-3.2%
購入電力使用量	kWh	19,315	-1.5%	-2.0%	-2.5%	-2.7%
ガソリン使用量 (走行燃費)	使用量	ℓ	15,741	—	—	—
	走行距離	km	195,187	—	—	—
	燃費 ※1	km/ℓ	12.4	12.7km/ℓ(+2.4%)	12.8km/ℓ(+3.2%)	12.9km/ℓ(+4.0%)
軽油使用量 (走行燃費)	使用量	ℓ	6,398	—	—	—
	走行距離	km	49,265	—	—	—
	燃費 ※1	km/ℓ	7.7	8.0km/ℓ(+3.9%)	8.1km/ℓ(+5.2%)	8.2km/ℓ(+6.5%)
灯油使用量	ℓ	410	-2.0%	-2.5%	-3.0%	-3.2%
一般廃棄物排出量	t	0.17	-2.0%	-2.5%	-3.0%	-3.2%
産業廃棄物排出量	t	344	-2.0%	-2.5%	-3.0%	-3.2%
水使用量	m ³	360	-1.5%	-1.8%	-2.0%	-2.2%
環境に配慮した 工事施工	件	施工法の検討	1件以上	1件以上	1件以上	1件以上

★購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.452 kg-CO₂/kWh(中部電力 2018年度調整後)

※1 ガソリン及び軽油使用量は工事受注量や現場間の距離により大きく変動するため、環境経営目標は車両走行燃費の向上とする。

※2 ガソリン及び軽油使用量は二酸化炭素排出量を算出するための参考値とする。

【事務所】

項目	単位	基準値(2018年度)	2024年度目標 (増減率)	2025年度目標 (増減率)	2026年度目標 (増減率)	2027年度目標 (増減率)
購入電力使用量	kWh	6,248	-1.5%	-2.0%	-2.5%	-2.7%
ガソリン使用量 ※2	ℓ	874	-1.3%	-1.4%	-1.5%	-1.6%
灯油使用量	ℓ	390	-2.0%	-2.5%	-3.0%	-3.2%
一般廃棄物排出量	t	0.17	-2.0%	-2.5%	-3.0%	-3.2%
水使用量	m ³	360	-1.5%	-1.8%	-2.0%	-2.2%

※建設現場と比較して環境負荷の変動が少ない事務所の電力等のエネルギー使用量を重点的に削減する。

【建設現場】

項目	単位	基準値(2018年度)	2024年度目標 (増減率)	2025年度目標 (増減率)	2026年度目標 (増減率)	2027年度目標 (増減率)
購入電力使用量	kWh	13,067	-1.5%	-2.0%	-2.5%	-2.7%
ガソリン使用量 ※2	ℓ	14,867	-1.3%	-1.4%	-1.5%	-1.6%
軽油使用量 ※2	km/ℓ	6,398	-2.0%	-2.5%	-3.0%	-3.2%
灯油使用量	ℓ	20	-2.0%	-2.5%	-3.0%	-3.2%
産業廃棄物排出量	t	344	-2.0%	-2.5%	-3.0%	-3.2%

※建設現場のガソリン・軽油使用量は受注する土木工事内容による変動が大きく、二酸化炭素排出量目標を達成するための参考値とする。

5. 環境経営計画

No	項 目	活 動 内 容	担当者	2024年度/月												備 考	活動の 評価
				10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
1	電気使用量の削減	パソコンを使用していない時は電源をOFFにする。	全員														△
		☆ クールビズ・ウォームビズを推奨															○
		事務所内のエアコン温度を設定する。						→								温度を夏28℃・冬22℃に設定	○
		使用していないエリアの蛍光灯は電源をOFFにする。															○
		昼休み時の消灯を徹底する。														12時～13時の時間帯は消灯	○
		エアコンフィルタの定期清掃する。		→								→				年2回	○
		LED蛍光灯の導入を検討する。															○
2	燃料使用量の削減	エコドライブ10の周知と励行。	全員													燃費改善に取組む	○
		☆ 急発進・急加速の禁止															○
		エコドライブステッカーの貼付による意識の向上。															○
		車両の定期点検とオイル交換による整備の実施														車両燃費の向上	○
		重機の省エネ運転を励行する。														省エネ運転マニュアルの活用	○
		車両更新時は、低燃費車の導入を検討する。														ダンプトラック1台更新	○
		ICT情報化施工による重機使用の取組み														取組みの検討	△
3	廃棄物排出量の削減	コピー用紙購入量の削減。（両面印刷・裏紙使用）	全員														○
		施工・作業時等で資材ロスの低減を図る。															○
		分別ボックスの活用によるごみ排出量削減の推進。														分別ボックスの設置	○
		段ボール等のリサイクルに努める。														梱包材の有効活用	○
		現場での分別回収の推進と資源化を図る。														現場毎	○
4	水使用料の削減	洗車時等の節水。（不必要な水の垂れ流し禁止）	全員														○
		不必要な水の垂れ流しを禁止する。															○
5	環境に配慮した工事施工	環境負荷の軽減につながる工事施工法等の提案	土木部														○
		再生資源の積極利用															○
6	社内教育の推進	環境関連についてのテーマを決めて勉強会を実施する。	全員													各会議等（必要により）	○
		SDGs活動の取組み。														事例の活用	△
7	地域・社会貢献への参加	地域の環境保全活動への参画する。	全員													ボランティア活動	○
		道路、河川、ガードレール等の清掃活動に参加する。	担当者	→							→	→				〃	○

☆は新規の活動内容

※評価の記号 取組みの達成度 ○：100～80％以上 △：80～50％ ×：50％未満を示す

6. 環境経営目標の実績

【全部門】

2024年度実績(2023年10月～2024年9月)

項目	単位	基準値(2018年度)	2024年度目標 (増減率)	2024年度実績値	目標値	増減率実績 (基準年)	目標達成率	達成率 評価
二酸化炭素排出量	kg-CO2	64,355	-2.0%	56,407	63,068	-12.4%	111.8%	◎
購入電力使用量	kWh	19,315	-1.5%	14,304	19,025	-25.9%	133.0%	◎
ガソリン使用量 (走行燃費)	使用量	ℓ	—	7,955	—	-49.5%		
	走行距離	km	—	131,219	—	-32.8%		
	燃費 ※1	km/ℓ	12.4	12.7 (+2.4%)	12.7	-33.0%	129.9%	◎
軽油使用量 (走行燃費)	使用量	ℓ	—	3,773	—	-41.0%		
	走行距離	km	—	32,633	—	-33.8%		
	燃費 ※1	km/ℓ	7.7	8.0 (+3.9%)	8.0	12.3%	108.1%	○
灯油使用量	ℓ	410	-2.0%	635	402	54.9%	63.3%	×
一般廃棄物排出量	t	0.17	-2.0%	0.41	0.17	139.4%	40.9%	×
産業廃棄物排出量	t	344	-2.0%	308	337	-10.5%	109.5%	◎
水使用量	m³	360	-1.5%	321	355	-10.8%	110.5%	◎
環境へ配慮した工事施工	件	施工法の検討	1件以上	5件	1件以上	4件	400%	◎

★全部門のガソリン及び軽油使用量は、車両燃費を算出するための車両への給油量です。環境負荷シートのガソリン・軽油使用量の合計とは異なります。

★購入電力の二酸化炭素排出係数は0.452kg-CO2/kWh（中部電力2018年度調整後）

※1 ガソリン及び軽油使用量は工事受注量や現場間の距離により大きく変動するため、環境経営目標は車両の走行燃費の向上とする。

※ガソリン車の燃費は事務所・土木部で使用している車両10分の走行距離をガソリン使用量で除した数値です。

※軽油使用車の燃費は土木部・軌道部で使用している車両6台分の走行距離をガソリン使用量で除した数値です。

※2 ガソリン及び軽油使用量は二酸化炭素排出量を算出するための参考値とする。

【事務所】

項目	単位	基準値(2018年度)	2024年度目標 (増減率)	2024年度実績値	目標値	増減率実績 (基準年)	目標達成率	達成率 評価
購入電力	kWh	6,248	-1.5%	7,522	6,154	20.4%	81.8%	△
ガソリン使用量 ※2	ℓ	874	-1.3%	716	863	-18.1%	120.5%	◎
灯油使用量	ℓ	390	-2.0%	635	382	62.8%	60.2%	×
一般廃棄物排出量	t	0.17	-2.0%	0.41	0.17	139.4%	40.9%	×
水使用量	m³	360	-1.5%	321	355	-10.8%	110.5%	○

※2 事務所及び建設現場のガソリン及び軽油使用量は、車両以外に重機やフォークリフト・発電機等の建設機材用に使用した量の合計です。

【建設現場】

項目	単位	基準値(2018年度)	2024年度目標 (増減率)	2024年度実績値	目標値	増減率実績 (基準年)	目標達成率	達成率 評価
購入電力	kWh	13,067	-1.5%	848	12,871	-93.5%	1517.8%	◎
ガソリン使用量 ※2	ℓ	14,867	-1.3%	7,239	14,674	-51.3%	202.7%	◎
軽油使用量 ※2	ℓ	6,398	-2.0%	11,566	6,270	80.8%	54.2%	×
灯油使用量	ℓ	20	-2.0%	0.00	19.6	100%	100%	◎
産業廃棄物排出量	t	344	-2.0%	308	337	-10.5%	109.5%	◎

評価：◎目標達成率(10%以上) ○目標達成率(10%未満) △目標未達成率(-20%未満) ×目標未達成率(-20%以上)を示す

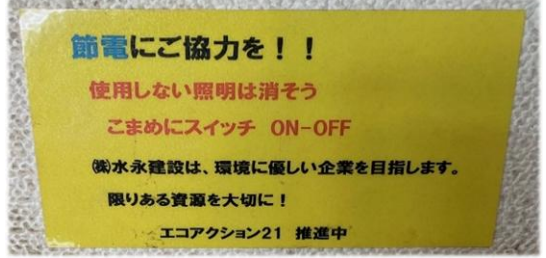
7-1. 環境経営目標の取組み結果とその評価

1) 取組結果とその評価

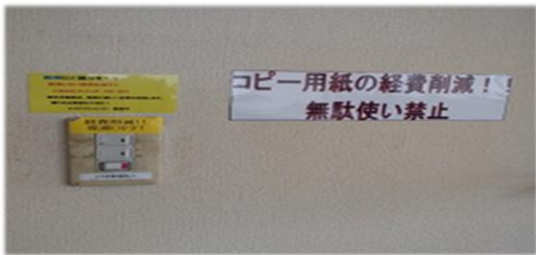
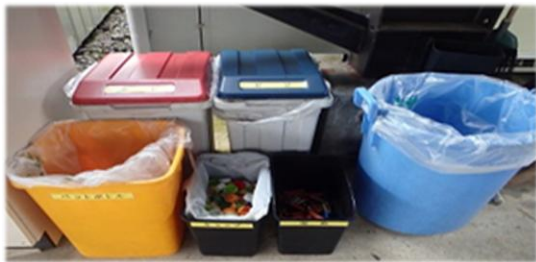
項 目	評 価	評価
二酸化炭素排出量の削減	・二酸化炭素排出量は、-2.0%の削減目標に対して-12.4%の実績で目標を大幅に達成できた。 - これは、土木工事部門での台風大規模災害復旧工事が一段落し重機稼働が大幅に減少したため。また重機使用工事で低燃費、低排出ガス型の重機を選定することにより、結果として大量の二酸化炭素排出を低減させることができた。 ・軽油使用量の総合目標は、対基準年度比で未達成であったが、建設現場における軽油使用量は前年比72%削減することができた。 ・ガソリン使用量は2016年度から毎年コンスタントに減少傾向で推移しているが、軽油及び電力使用量は、その年の工事内容により大きく変動するため排出量全体の予測と管理が難しい。 ・エネルギー使用量の傾向として、工事内容の変動に伴いダンプカーや重機用の軽油やガソリン使用量が減少傾向であるが、それに変わり現場での電力使用量の増加が見込まれ、このバランスにも配慮した施工法等により二酸化炭素排出量の削減に取組む。 ・二酸化炭素排出量ではガソリン・軽油使用量が全体の86%を占めており、これらの削減対策として、引き続き重機等の省エネ運転や車両のエコドライブ10を推進して燃費の向上に取り組む。 1.二酸化炭素排出量推移 2.二酸化炭素排出量	◎
購入電力使用量の削減	・電力使用量は、1.5%の削減目標に対して実績は-26%と大幅な削減となり達成となった。 ・事務所の電力は、昼休み時の消灯徹底やエアコンの取扱いなどの小さな積み重ねが定着してきたが、これ以上の削減は難しい段階にある。 ・社内の事務所の照明をLEDに変更し電力の省エネを推進した。	◎
ガソリン車の燃費向上	・業務用車両を低燃費型の新車へ買換えを行い、12.7km/ℓの燃費目標に対して16.5km/ℓと、大幅に燃費改善となり目標を達成できた。 ・燃費の達成要因として、アクセルやブレーキの操作方法等のエコドライブ10の励行や個人毎に車両燃費の測定や早めのオイル交換等の効果が現れていると判断している。 ・引き続き車両毎の走行燃費の把握等により燃費向上の取組みを推進する。	◎
軽油使用車の燃費向上	・軽油車両の燃費は、これまでにダンプカー3台を新車に更新したことによる車両性能向上の効果もあり実績燃費は目標値8.0km/ℓに対し実績値8.6km/ℓで目標を達成した。 ・現場軽油使用量は、台風大規模災害復旧工事が一段落したとはいえ、現場状況により重機稼働率は高く、対基準年度比では80%増であるが、対前年度比では72%減であり評価したい。 ・燃費の達成要因としては、現場までの走行状況の良化やダンプカー更新による燃費性能の向上等の効果によるものと推測する。	○
灯油使用量の削減	・-2.0%の目標に対し55%の増加となった。また前年比14%増となり目標未達成であった。 - 要因としては、事務所での暖房効率アップのため、石油ストーブの使用が増えたことによる。 ・エアコンと石油ストーブの効率的な使用を決め実施する。	×
一般廃棄物排出量の削減	・目標値-2.0%に対し139%と大幅な増加となった。 - 排出量の大半を雑誌やカタログ、段ボールが占めており削減が難しい面もあるが、引き続き分別の強化と再利用等を推進する。	×
産業廃棄物の削減	・-2.0%の目標に対し-10.5%の削減率となり目標を達成した。 - 要因としては、造成及び土木工事において廃棄物を排出する工種が大幅に減少したため。 ・工事現場での分別活動を徹底することで地道に排出量削減に取り組む。	◎
水使用量の削減	・-1.5%の目標に対して、実績は-10.8%であり達成することができた。 ・使用量の大半は水道やトイレの生活用水であり、節水意識の向上及び手洗い時の節水等の細かな積み重ねを徹底する。	◎
環境に配慮した工事施工	・法面工事現場付近の草木を調査し、在来種の種をまくことで周囲環境との調和を図った。 ・法面工事等に間伐材の使用により資材の有効活用を促進した。 ・工事施工等にあたり周囲環境に配慮した工事を年2件以上を提案したい。	◎
社会貢献への参加	・引き続き地域の河川・道路清掃等のボランティア活動に積極的に参加する。	◎

評価：◎目標達成率（10%以上） ○目標達成（10%未満） △目標未達成（-20%未満） ×目標未達成（-20%以上）を示す

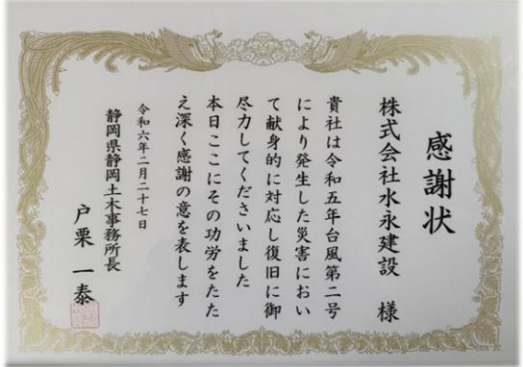
7-2. 環境経営計画の取組み状況

項目	取組内容	状況写真
経営計画の推進	定例会議にてフォロー	
	伝達事項の掲示	
	不要時のスイッチOFF	
	空調機の温度管理	
	節電意識の向上	
水使用量の削減	節水の徹底	

7-2. 環境経営計画の取組み状況

項目	取組内容	状況写真
廃棄物排出量の削減	コピー用紙の使用削減	
	分別回収の推進	
環境への配慮	現場の安全パトロール	
社会貢献への参加 (ボランティア活動)	河川敷の清掃	
	小学校の側溝清掃	
	地域生活道路 カーブミラーの清掃	

7-2. 環境経営計画の取組み状況

項目	取組内容	状況写真
地域・社会貢献 (災害復旧活動)	台風被害復旧工事	

7-3. 次年度の環境経営計画

次年度の環境経営目標は、中長期環境経営目標から変更なし。

No	項 目	活 動 内 容	担当者	2025年度/月												備 考
				10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1	電気使用量の削減	パソコンを使用していない時は電源をOFFにする。	全員													
		クールビズ・ウォームビズを推奨														
		事務所内のエアコン温度を設定する。														温度を夏28℃・冬22℃に設定
		使用していないエリアの蛍光灯は電源をOFFにする。														
		昼休み時の消灯を徹底する。														12時～13時の時間帯は消灯
		エアコンフィルタの定期清掃する。														年2回
		LED蛍光灯の導入を推進する。														
2	燃料使用量の削減	エコドライブ10の周知と励む。	全員													燃費改善に取組む
		急発進・急加速の禁止														
		エコドライブステッカーの貼付による意識の向上。														
		車両の定期点検とオイル交換による整備の実施														車両燃費の向上
		重機の省エネ運転を励行する。														省エネ運転マニュアルの活用
		車両更新時は、低燃費車の導入を検討する。														
		ICT情報化施工による重機使用の取組み														取組みの検討
3	廃棄物排出量の削減	コピー用紙購入量の削減。（両面印刷・裏紙使用）	全員													
		施工・作業時等で資材ロスの低減を図る。														
		分別ボックスの活用によるごみ排出量削減の推進。														分別ボックスの設置
		段ボール等のリサイクルに努める。														梱包材の有効活用
		現場での分別回収の推進と資源化を図る。														現場毎
4	水使用料の削減	洗車時等の節水。（不必要な水の垂れ流し禁止）	全員													
		不必要な水の垂れ流しを禁止する。														
5	環境に配慮した工事施工	環境負荷の軽減につながる工事施工法等の提案	土木部													
		再生資源の積極利用														
6	社内教育の推進	環境関連についてのテーマを決めて勉強会を実施する。	全員													各会議等（必要により）
		SDGs活動の取組み。														事例の活用
7	地域・社会貢献への参加	地域の環境保全活動への参画する。	全員													ボランティア活動
		道路、河川、ガードレール等の清掃活動に参加する。	担当者													〃

8. 環境関連法規等の遵守状況の結果並びに指摘等の有無

2024年12月1日

法律等の 名称	該当する環境関連法規	適用項目	管理責任部門	遵守評価
建設業として遵守する法律	廃棄物処理法	一般廃棄物の収集運搬業者への委託処理	事務局	○
		産業廃棄物の適正保管	土木部	○
		産業廃棄物の委託処理	土木部	○
		運搬又は処分を委託する場合の処理基準の遵守	事務局	○
		マニフェストの交付及び保管 (A及びB2・D・E票の5年間保管)	事務局	○
		管理票写しの送付がない場合の適切な措置 (D・E票の期限内返却)	事務局	○
		処理業者との契約書の取り交わし	事務局	○
		保管場所に掲示板(60×60cm以上)	土木部	○
		マニフェスト交付状況報告書の提出	事務局	○
	静岡県産業廃棄物の適正な 処理に関する条例	産業廃棄物管理責任者の設置	事務局	○
		産業廃棄物処理の委託先の実施確認とその記録保全	事務局	○
	建設リサイクル法	対象建設工事の再資源利用計画書に添った実施と管理	土木部	○
		分別解体等の実施義務	土木部	○
		再資源化等の実施義務	土木部	○
	フロン排出抑制法	第一種特定製品(業務用冷凍・空調機器)の管理の適正化	事務局	該当なし
		第一種特定製品(建設機械エアコン)の管理の適正化	土木部	○
		簡易点検記録の作成(3ヵ月毎)	土木部	○
		第一種特定製品廃棄等の実施者への引渡し義務	土木部	該当なし
	騒音規制法	作業現場における規制基準の遵守	土木部	○
	振動規制法	作業現場における規制基準の遵守	土木部	○
	下水道法	排水設備の設置義務	全部門	○
	消防法	危険物の保管方法及び運送方法の遵守	全部門	○
	グリーン購入法	資材・OA用品等グリーン商品の購入に努める。	全部門	○

遵守確認評価

環境管理責任者

石谷嗣夫

- ① 環境関連法規への指摘等は過去3年ありません。
- ② 1年に1回(10月)定期的に見直します。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果・指示

項目		確認	必要に応じて評価・コメント記載
1 ・ 見 直 し 関 連 情 報	1 エコアクション21文書	✓	建設業者向けガイドライン2017年度版対応
	2 環境経営目標及び目標達成状況	✓	環境負荷の実績は灯油使用量と一般廃棄物排出量が未達成であった。
	3 環境経営計画及び取組み実施状況	✓	経営計画の各項目の取組については、計画通りに実行できた。
	4 環境関連法規要求一覧及び遵守事項	✓	法律・規則等で該当するものは全て遵守した。
	5 外部コミュニケーション・対応記録	✓	外部からの苦情は無し。
	6 問題点の是正・予防処置の実施状況	✓	建設業の特性上、現場の軽油使用量と電力使用量のバランスを保ちながら二酸化炭素排出量を抑制する必要がある。抑制するには難しい面もあるが引き続き管理を強化する。
	7 取引先、業界、関係行政機関、その他の外部機関	✓	地域社会活動に今後も積極的に参加する。
	全体評価・コメント (環境経営システムの有効性・環境への取組の適切性等)		活動計画に基づく取り組みは定着していると認識しているが、目標を高く持ち更なる活動の活性化につなげたい。二酸化炭素排出量は工事受注量と内容により軽油使用量の変動に伴い大きく影響される。その対策として環境教育の推進を継続して節電意識やエコドライブについて地道にレベルアップを図る。
2 評・ 価・ 代 表 指 示 に よ る 見 直 し 全 体	見直し項目		変更の 必要性
	1	環境経営方針	有・ 無
	2	環境経営目標・計画	有・ 無
	3	環境経営計画・取組み項目	有・ 無
	4	環境に関する組織	有・ 無
	5	その他システム要素	有・ 無
	6	その他（外部への対応）	有・ 無
		「有」の場合の指示事項	

2024 年 12 月 23 日

代表取締役 水永吉紀